

1. 山際さん：9:07-10:32

a. 「スライドショーにすると強制終了するので、エディターモードで発表します。」

b. OFSにより目盛りを拡大していくことによる高精度化

c. 出た議論

i. レンズレスのDHの場合に、再構成可能な物体空間の大きさは何で決まるか？

1) 記録できる最大空間周波数はイメージャーの画素ピッチで決まる。

a) 今回の場合、画素ピッチ30um.

波長1.5umのとき

a. $\sin(30)=0.5$

b. $A\sin(0.05)=2.87$

2) 周期境界条件から同じパターンを繰り返した

ものを計算していることになる。

ii. サンプルとなるゲージの精度を確認して、測定の有効性（有効桁）の確認

iii. 次の一手は？対物レンズの代わりに1.5um用にコーティングされたレンズを使って10倍の拡大結像して実験を行う。

iv. 白色干渉で次数を追い込む研究が多くある。

1) スライド6でオリジナリティを出すのであれば、サーベイしておく必要がある。

2) 干渉計測の立場からは「位相ノイズ0.3umは悪い」部類になる。

v. DHを使う必要がある。干渉計測であれば美濃島さんとバッティングするので注意。

1) 再構成距離による違いを見せる。

2) 大まかな距離は再構成の画像で見る。

3) 注目距離での微細な構造については再構成

画像の位相で見る。

2. 長谷さん+宮本さん：10:33-10:56

a. 南川さん自作のコム

b. アラン偏差？ 移動平均のばらつきを表す（全サンプルについてとれば標準偏差になる）

c. EOM-RIOロックが問題か？とわかった。

3. 澁谷さん：10:57-11:35

a. ネオアークのコム

b. 振幅だけでもさきに論文をだしたらどうか

4. 小川さん：11:48-

a. 光CTについての論文を確認する

b. DHの角スペクトル法で低周波数成分の波面を算出してCTで再構成すればどうか。

5. 水口さん：12:15-

- a. なぞの「子供パルス」がある。あとで検討。
- b. スペクトルのギザギザの由来？
 - i. 吸収するサンプルについて吸収スペクトルしてみれば、サンプル由来か光源由来かがわかるのではないか。
- c. Menloに比べて帯域が減っている点が吸収分析ではデメリットになるだろうが、メリットは？
 - i. 1 GHzの帯域はある。
 - ii. パルス幅のためにスペクトル幅が狭くなっている。．．．フーリエリミットになっているか？

1) フーリエリミットになっているかを確認しておくことが重要。

6. 増岡さん：??-

- a. 温度が一番繰り返し周波数の変化を大きくできる。
- b. 共振器内の温度分布の測定。右上と左下で1分の遅れ。->厚い銅板を利用する。
- c. 温度を23度に一定にしたときの安定性のグラフ
- d. 温度の値もプロットをしてほしい。0.01secごとのサンプリングでなくてもOK。

7. 麻植さん：13:08-13:47

- a. ?サンプルの温度をどう確認している？
 - i. 今後センサー部分にヒーターをつけて温度一定にすることを検討
- 1) 南川：屈折率変化は0.01程度のはず->スペクトル変化との関係を見積もる
- b. 実験結果のサンプルのエタノール濃度に対するスペクトルのグラフの縦軸を屈折率にするためにもスペクトルと屈折率の関係を明らかにすることが重要
 - i. ピークの取り方：スペアナの値をそのままなので、高精度化について検討してもよい。